

プロジェクト スマート林業技術等を活用した林業のデジタルシフト

目 標

- ・スマート林業コア技能者数 R4：0名 → R7：30名
- ・素材生産量 H29～R3平均：109万㎡ → R10：130万㎡
- ・1工場当たりの製材品出荷量 R2：414㎡ → R6：500㎡
- ・林内路網延長 R4：1,291km → R10：1,315km

挑戦する内容

- ・スマート林業技術を現場で実践・指導できる技能者の育成
- ・各種技術の現場レベルにおける精度やコスト等の森林クラウドシステムを活用した実証・普及
- ・原木需給マッチングによる原木取引の安定化・効率化
- ・航空レーザ計測により得られる地理情報を活用した路網整備計画の作成促進

関係者の声
=対話

- ・人手不足のため効率良く森林の調査をしたい（林業事業者）
- ・適正価格の原木の安定入手が難しい（製材業者）
- ・生産調整ができていない（林業事業者）

役割分担

- ・市町村：課題提示、各種技術の習得
- ・林業事業者：課題提示、現場の提供、各種技術の習得、マッチングシステムの実施主体
- ・製材業者：マッチングシステムの実施主体
- ・産技センター：技術の実証、情報提供、助言
- ・県：情報提供

変革後の姿

- ・コア技能者が一般技能者へ技術を指導することにより、スマート林業技術が地域へ普及・定着
- ・生産性が高まることで素材生産量が増大し、所得が向上

令和6年度計画

挑戦する内容

- 1 スマート林業技術を現場で実践・指導できる技能者の育成
 - ・林業事業体に勤務する若手職員を対象に、スマート林業コア技能者を育成するための研修会を各コンソーシアムで開催
 - ※R5にスマート林業を地域一丸となって取り組むコンソーシアムを3地域に設置（津軽地域、南部地域、下北地域）
- 2 各種技術の現場レベルにおける精度やコスト等の森林クラウドシステムを活用した実証・普及
 - ・多様な現場の状況に応じた資源解析の技術（手法）を構築するため、津軽地域の広葉樹を主体とした実証試験地において、ドローン写真、ドローンレーザ、地上レーザの実証試験を実施
- 3 原木需給マッチングによる原木取引の安定化・効率化
 - ・原木需給マッチングシステムの実証・検証
 - ・原木需給マッチングシステム運用に向けた検討会の開催



デジタル林尺



森林クラウドシステム

対話

- ・部会を開催し、事業の進捗状況を把握するとともに、意見を参考に事業構築（8月、1月）
- ・各コンソーシアムで打合せを実施し、現場の要望や課題等を研修会企画内容に反映（打合せ：四半期に1回）
- ・津軽地域のコンソーシアム構成員と意見交換を行い、実証試験地選定について検討（6月）
- ・原木需給マッチングシステム構築検討委員会においてシステム実証成果を検証し、システム構築に反映（9月）
- ・原木需給マッチングシステムに参画を希望する林業事業者・製材業者からの意見を集約し、運用方法を検討（10月）